

令和4年度 学校評価のまとめについて

1 まとめの視点

「確かな学力の育成」「健やかな体の育成」「一人一人を大切にする教育の推進」「特色ある教育活動」に関する評価項目について徳・体・学校の特色に関する評価項目について、保護者・地域の肯定的な回答率の高い学校と低い学校の取組等についてまとめ、違いについて考察した。

2 令和4年度 結果より

(1) 確かな学力の育成

評価項目 II-1 学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	取組等
92.6%	A小	・学年主任を中心に、学年内で授業の進め方の共通理解を図り、提示する教材や学習プリントを共有し使用している。また校内研究で単元を通じた授業改善に取り組んでいる。
85.3%	B中 (CS)	・振り返りシートの活用し、教員が生徒の毎時間の習熟の状況の見取りを行っている。振り返りシートにはコメントを入れて返却し、生徒に次時への意欲をもたせるようにしている。
68.3%	C中	・授業は整然と進むが、講義的な授業になり、生徒の発言が少ない。土曜授業でも同様の授業展開だった。

(2) 健やかな体の育成

評価項目 IV-1 学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	取組等
93.6%	D小	・縄跳び月間（短縄・大縄）・大縄大会、持久走月間・持久走記録会などを年間計画に位置付け、体力や運動への興味関心が高まるよう取組を行っている。
93.5%	E中 (CS)	・体育の授業や部活動において、生徒の能力に合った目標を設定し、意欲を高めている。うまくできなかったことについては、その理由を生徒自身に考えさせ、主体的に運動に関わらせている。
68.8%	F中	・コロナ禍による活動の制限がある中で、工夫して実施した体育の授業や運動会等行事の取組の周知が足りなかった。

(3) 一人一人を大切にする教育の推進

評価項目 V-3 学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	取組等
94.2%	G小 (特支学級 設置校)	・日々の授業や学校行事等において、通常学級と特別支援学級の児童と一緒に学ぶ機会をできる限り作るようにしている。学校公開等でその様子を見ていただくようにしている。
87.9%	B中 CS	・学期始めの教育相談的な取組等では、生徒の悩みを丁寧に聞き取り、校内委員会での情報共有を確実にを行い、個に応じた対応をしている。教員は、担任以外とも気軽に話せる関係づくりに努めている
49.0%	H小 (特支学級 設置校)	・土曜授業等、保護者や地域の方に見ていただく機会に、積極的に交流及び共同学習を実施することができなかった。また、保護者・地域への周知もできなかった。

(4) 特色ある教育活動

評価項目 VIII-1 学校は、特色ある教育活動への取組に関する教育を推進している。

保護者・地域 肯定的な回答率	学校	取組等
95.9%	I小	・大学と連携したSDGsの取組や、地域の方と連携した地域学習の取組を行った。土曜授業の際には全学年SDGsに関わる授業を行い、取組を直接見せたり、保護者・地域の方と児童とを一緒に活動させたりする機会を設定した。
92.5%	J中	・外部と連携したキャリア教育の取組を行った。保護者会やPTA総会での周知を行ったり、PTA役員による保護者の事前勉強会を行ったりして、PTAと協働で実施した。
59.2%	K小	・学校の特色について、具体的な取組の周知ができていなかった。取組後の保護者アンケートの項目の工夫が足りてなかった。

3 考察

<周知の仕方について>

- ・教育活動のねらいや内容について、保護者会、学校だより、HP等で日常的に紹介することが必要である。
- ・特に重点としている取組等については、学校公開の際に授業を公開したり、一緒に取り組んでいただいたりすることで、理解が深まると考えられる。

<評価の取り方について>

- ・学校公開や行事の事後アンケートは、学校評価の項目に沿った、具体的で意見しやすい様式になるよう工夫する必要がある。
- ・学校公開や行事の事後アンケートの回答をもとに、すぐに振り返りを行い、改善策を検討し、その後の教育活動に生かしていくことが求められる。